

事業所における防災の取組みについて～東日本大震災からまもなく 15 年を迎えて～

東北電力ネットワーク株式会社 仙台北電力センター配電工事課 鎌田 俊

東北電力ネットワーク株式会社 仙台北電力センターは、仙台市泉区、富谷市、大和町、大郷町、大衡村を担当エリアとし、地域の皆さまに寄り添いながら、ご家庭や工場等に、24 時間 365 日安定した電気を安全かつ確実に届ける業務に取り組んでいます。

今年で東日本大震災から 15 年を迎えますが、震災の発生により、仙台北電力センター管内を含めた広範な地域において、当社設備に甚大な被害を受けました。震災直後には最大 466 万戸が停電した中、東北電力グループの総力と全国の電力会社の応援により、3 日後には約 80% の復旧を実現しました。その後、4 月 7 日の余震による再停電もありましたが、約 3 か月後には送電可能な地域の停電をすべて解消することができました。この迅速な復旧は、当時の被害の規模を考えると、非常に大きな成果であったと考えています。

「何がなんでも電気を点ける」という強い使命感のもと、震災発生以前から、日々の訓練により、社員一人ひとりが技術力と災害対応力の向上に努めてきたことが、迅速な復旧につながったと考えています。

訓練計画にあたっては、個々の能力に合わせた技術力の維持・向上を図るため、経験年数に応じた教育体系を整備したうえで、各訓練を展開しています。座学と実技を組み合わせた訓練を通じて、実際の設備に触れる体験を重視し、現場経験を通じて、より実践的なスキルを身につけています。

また、地震だけでなく、豪雨や豪雪など様々な災害に備えるため、災害復旧訓練を定期的に行っています。最近では、仙台北電力センター

と仙台南電力センターが合同で、水害を想定した訓練を実施しました。仙台市若林区の貞山運河を会場に、災害用ボートの組み立てや救命胴衣の着用、運河での移動訓練を実施し、若手社員が水中での動きにくさを体感しました。

さらに、全国の電力会社管内への応援を想定した高圧電線の接続訓練や、雪山での雪上歩行訓練、デジタルツールを活用した被害状況の把握・報告訓練など、年間を通じて多様な災害に対応できる体制づくりを進めています。

今後は、ドローンや AI を活用した設備点検の高度化を図るとともに、災害時の迅速な状況把握と復旧判断を支援するシステムの導入を進めてまいります。気象データと連携した予測型保守や、遠隔操作による復旧支援技術の開発にも取り組み、災害対応力のさらなる強化を目指しています。

また、人材育成においては、現場対応力の向上を最重要課題と位置づけ、若手社員の早期戦力化を目指した OJT の充実や、ベテラン社員による技術継承の仕組みづくりを進めています。災害時に即応できる判断力と行動力を養うため、実践的な訓練と座学を組み合わせた教育を強化しています。今後も、現場力の高い人材を育成し、地域の安心・安全を支える電力供給体制の強化に継続して取り組んでまいります。

